

Title	中国語の破音の研究
Author(s)	吉野, 美弥雄
Citation	大阪外国語大学学報. 7 p.147-p.169
Issue Date	1959-04-01
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80155
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中国語の破音の研究

吉 野 美 弥 雄

提 錄

本稿声音的次序是按照漢語拼音方案・注音符号和威氏式 (Wade's System) 拼音的法式。

本字傍边打個圈点的是表示第幾声的意思，(1) 左边下頭的是第一声，(2) 左边上頭的是第二声，(3) 右边上頭的是第三声，(4) 右边下頭的是第四声。

甲. 声的前变音，分為兩個三声字的前变音，三個三声字的前变音，四個三声字的前变音和五個三声字以上的前变音。

A. 兩個三声字的前变音。凡是兩個三声的字，或是詞，連讀的時候，前一個三声字，应当改讀二声，例如「早起」的「早」字，但是形容詞的「好好」之類，名詞的「姐姐」之類，那是歸在變尾音之內的，都不在此例，這層必須要特別注意，不然是最容易發生疑惑和混亂。

B. 三個三声字的前变音。凡是三個三声字連讀的時候，若是頭一個字是單詞，後兩個字複詞，第二個三声字，要改念二声，例如「也可以」之「可」字，若是三個三声字都是單詞，也是第二個三声字，要改念二声，例如「也很好」之「很」字，若是前兩個三声字是複詞，後一個三声字是單詞，前兩個三声字，都要改念二声，例如「可以使」之「可以」兩個字。

C. 四個三声字的前变音。凡是四個三声的字連讀的時候，若是四個三声字都是單詞，例如「豈有此理」的「豈」字和「此」字都要改念二声。

D. 五個三声字以上的前变音。凡是五個三声字以上的三声字，連讀的時候都可以根據 A 和 B 的連讀的方法，兩個三声字一段，或是三個三声字一段，分開了連讀，例如「你数数也好」把前三個字分為一段，後兩個字分為一段，若是六個三声字連讀的時候，例如「你也可以数数」這是 B 的二段的方法，這不過是每樣兒舉一兩個例而已，其余的都可以以此類推了。

乙. 字的前变音，分為「一」字的前变音，「七」字「八」字的前变音和「不」字的前变音。

A. 「一」字的前变音。「一」字語音，本来是一声，因為後一個字声音的緣故，不能不改讀本音，所以也歸在前变音之內，「一」字後边的字，不論是一声・二声・三声，「一」字都要改念四声。若是「一」字後边字是四声，「一」字都要改念二声。

B. 「七」「八」字的前变音。「七」「八」兩個字語音的本音，本来都是一声，若是後一個字是四

声,「七」「八」兩個字都要改念二声,例如「七個」「八個」的。若是後边的字,不論一声・二声・三声,「七」「八」兩個字都不改变一声的語音。

C.「不」字的前变音。「不」字的本音是四声,若是後一個字也是四声,「不」字必須改念二声,例如「不是」「不大」之類。

丙. 破音。破音就是同字異義的意思。

1. 本稿對於一個字,不論有幾個声音,全都在本字音後边互相標音。
2. 本稿對於一個字,不論有多少意義,竭力搜羅収羅,必一一的在後边举例。

中国語の発音を正確に学ぶことは、大変困難なことでとされている。それは、いかなる外国語でもいえることであらうが、実際中国語の発音を正確にマスターしようとするならば、他の外国語より困難といえ得るであらう。それは他の外国語に見られない、種類の欠くべからざる大切な要素を沢山含まれているからである。(1) 中国語の漢字文字は他の外国語と異って綴音の文字でもなく、音標文字でもないから、記音法の仲介を必要とする。(2) 同音異字が多くて聞分けにくいこと。(3) 類似の発音が非常に多く、微細な点を識別しにくいこと。以上の困難は克服するとしても、それ以外に、なお声調(四声)というものを、欠くべからざる要素としている。これは他の外国語には稀なるもので、中国語学習者にとっては特別の負担といわねばならない。

この中国語の漢字文字は、おのおの固有の声調一つは必ず具備しており、中には同一文字が、数音・数声を持っているものもある。その固有の声調(四声)が語調や意義の関係或は習慣から変声・変音する場合は相当に多いのである。もし声調を誤って発音したり、不正確に発音すれば、相互の了解が不可能になる。その声調の変化する場合を大別すれば、

第1. 語調の関係(前変音・変尾音)。

第2. 同字異義の場合(変声・変音)。

以上の二つに分けられる。いまこの第一の場合の主要な変化を見てみよう。

A. 二つ3声の文字の重なる場合。

二つの3声(上声)を連読する場合は前変音で前の3声(上声)を2声(下平)に発音する。

例。「很好」は「很」を2声(下平)に,「洗臉」は「洗」を2声(下平)に,「早起」は「早」を2声(下平)に発音する。但しここで注意せねばならぬことは、名詞の「姐姐」の類は変尾音で下字が輕念されて1声(上平)のような弱い声に発音される。

B. 三つ3声の文字の重なる場合。

三つの3声(上声)を連読する場合は、もし第一字が單詞で、後の二つの字が複詞であれば、

第二字（複詞の上字）を2声（下平）に発音する。例。「也可以」は「可」を2声（下平）に発音する。もし三つとも単詞のときは、同様第二字を2声（下平）に発音する。例。「也很好」は「很」を2声（下平）に発音する。また前の二字が複詞で後の一字が単詞のとき、前の二字とも2声（下平）に発音する。例。「可以使」は「可以」の二字を2声（下平）に発音する。

C. 四つの3声の文字が重なる場合。

四つの3声（上声）が連続される場合、もし四つとも単詞のとき、例。「豈有此理」は第一字と第三字を2声（下平）に発音する。もし前二字がともに単詞で、後の二字が複詞の場合。例。「你也数数」（数は動詞語）は第一字の「你」と第三字の「数」を2声（下平）に発音する。もしまた、前の二字が複詞で後の二字が単詞の場合。例。「数数也好」は第一字の「数」と第三字の「也」を2声（下平）に発音すればよい。但しここで注意すべきことは、第一字と第四字が単詞で第二字と第三字が複詞の場合。例。「你数数好」は「数数」の二字とも2声（下平）に発音する。「也可以使」は「可以」の二字とも2声（下平）に発音する。

D. 五つ以上3声の重なる場合。

3声（上声）の字が五つ以上重なった場合はA・Bの変化に準じて、二字或は三字を一段に分割して連続すればよい。例。「你数数，也好」は前の三字を一段にして、後の二字を一段としてもよい。また次の例。「你給我，打洗臉水来」の場合は最後の「来」は2声（下平）であるから、これには関係なく、七つの字の3声（上声）を連続することになるが、この場合は前の三字を一段として（B.の二項の単詞三字の場合に準じ）第二字を2声（下平）に変化し、後の四字を一段として考えて、「打」を3声（上声）そのままとして、「洗臉」二字の複詞を共に2声（下平）として「水」を3声に発音してもよいし、また七字を一組に考えて第一字を2声（下平）に変えて以下六字を交互に2声・3声と変化させて発音してもよい。

次に前項の変化と性質を異にするもので、一文字が声調の変化（前変音）する場合。これは後につづく文字の声調の関係で、前の字が改読されなければならない場合。

A. 一. の字が前変音となる場合。

一. の字は元来1声（上平）であるが、後につづく文字が1声・2声・3声の場合は一. の字はみな4声（去声）に改読されるのである。例。「一張」・「一条」・「一眼」の一は4声（去声）に発せられるが、もし一. の字の後に4声（去声）がつづけば、2声（下平）に改読される。例。「一部」・「一道」・「一塊」・「一意」・「一個」の一はみな、2声（下平）に変化する。但し一より十まで一、二、三と連続する場合は固有の1声（上平）である。またもし特に一の数字に重きをおく場合には、1声（上平）のまま発音する。例。「一一尽知」・「略知一二」のような場合。

B. 七・八の字の前変音の場合。

七・八の二字は本来1声(上平)に発するが、後につづく文字が4声(去声)ならば、2声(下平)に改読される。例、「七個」・「八個」「七万」・「八万」の場合。もし後につづく文字が1声・2声・3声なれば、七・八は本来の1声(上平)であって、決してかわらない。例、「七千」・「八千」・「七百」・「八百」・「七十」・「八十」の場合。

C. 多の字の前変音の場合。

多の字は後に4声(去声)の文字がつづくときは2声(下平)に改読される。例、「多大」・「多作」・「多重」・「多謝」・「多半」・「多事」・「多寿」の「多」の類である。

第二 同字異義の場合。

同一文字で複数の声調(四声)をもつものがあり、また同一文字で発音を異にする場合がある。これは第1の場合の語調を滑かにするための改読とちがって、同一文字で異った意味を表わすための変化であるから、決してゆるかせにできないのである。これが所謂中国語の破音であり、この研究首題の主眼である。例、「好」(ㄅㄠ)を3声(上声)に発音すれば「よい」という形容詞であるし、これを4声(去声)に発音すれば「好む」という動詞になる。また「種」(ㄓㄨㄥ)を3声(上声)に発音すれば、「種子」(たね)という名詞であるし、これを4声(去声)に発音すれば「植える」(まく)という動詞になる。なお「藏」(ㄘㄤ)を2声(下平)に発音すれば「かくす」「たくわいる」という動詞になり、「藏」(ㄘㄤ)を4声(去声)に発音すれば「くら」という名詞になるのである。次に「盛」(ㄕㄥ)を2声(下平)に発音すれば、器物に物を「もる」の意味になって動詞語になる。また「盛」(ㄕㄥ)を4声(去声)に発音すれば「さかんなる」という形容詞語となるのである。この破音に動員される音の数は約四百に上り、またその文字数は二千以上もあると考えられる。

以下その同一の文字で意義を易えて使用されるものを挙げて見よう。勿論紙数の関係で、ほんの一部を秩序なく配列したに過ぎない。

例 則

本題は口語音・文音・俗音・変音を極力蒐集に努めた。

表音法として「漢語拼音方案」によるローマ字・注音符号・ウエード式ローマ字の三種を併用し対照の便を図った。

例語・例文は古い教科書から現在普及されている、極く最近の読物まで渉獵して収めた。

〔記号〕「〜」は例文・例語中の問題点を指示したものである。各音を代表する大文字の四周には旧式による四声表示圈点「◦ 無氣」「◦ 有氣」を用いた。

1. Zha 𢀓 Y cha

。扎 Zhā 𢀓 Y cha¹

(1) さす、抜く。

「～針」針をさす、注射する、針を打つ。

「～進」刺し込む。「～緊」しっかりとしめる。「～手」手をさす。「雖然～傷了幾個莊客，到底是寡不敵衆，叫人家打躺下了」数人の用心棒に突き傷を負わせたけれども、結局衆寡敵せず、男どもに打ちのめされた。(今古奇觀・北京語訳 p. 86—12行)

(2) もぐりこむ。

「～住根兒」根がついた。「小孩兒往母親懷裏～」子供は母のふところへもぐりこんだ。

(権・四声字典 p. 6) 「在水裏～蒙(猛)子撿真珠」水中にもぐり込んで真珠をひらう。

(井上・中国語新辞典 p. 10)

(3) 木綿糸を以て造花細工等をする。(絹糸を以てするときは繡を用いる)

「～活」木綿糸で模様をつける。「～花兒」木綿糸で花の模様をつける。

。扎 Zhá 𢀓 Y cha²

(1) 我慢する。(病気などで気力がないのを無理に我慢して事をする意)

「～掙不住」辛抱しきれない。「～掙着辦」我慢して事をする。「～掙着去一盪」我慢して一度行く。「～掙着病去」病気を押して行く。「～掙着說你這個小孩子好大胆子不知進退」強いて去り気なく装うて言うには、この子供は馬鹿に大胆で命知らずだ。(急就篇 p. 114—7行)「他没有法子就～掙着到衙門裡去報了官」彼は仕方なく我慢して、役所へ届けでた。(官話指南 p. 60—2行)「我是強～掙着来的」私は身体の具合のわるいのを無理

して来た。(適用中国語解説 p. 153)「頭暈眼花，很有些～掙不住」めまいがして、目がかすんで、全く我慢しきれない。「走不動～掙着也得走，不然有甚么法子呢」歩けなくても我慢してゆかねば駄目だ、そうするより仕方がない。「在草叢裏掙～了好長時間，才撐身站了起来」草むらの中で長い時間、我慢して、やっと身を突張って立ち上った。(聊齋誌異・話本・向杲 p. 68)

(2) 抵抗する。

「馬～子」拍車。「最后掙～」最後の抵抗。

。紮(紮) Zhā 𢀓 Y cha¹

(1) 結びつける、しばる、くくる。

「紮綁」しばる、くくる。「紮緊」きつくしばる。「紮脚」足をしばる。「紮營」設営する、陣取る。「紮帳房」天幕をはる。「腿上紮着虎皮褲子」足(もも)に虎の皮のズボン(フンドシ)をはいている。(急就篇 p. 113)

「還得買十幾根球檯紮架子哪」まだ十五六本のキビガラを買い取って張下を作らねばならない。(官話指南 p. 163—4行)

(2) 懸念する。

「那件事我实在紮心的了不得」あの事は私は心にかかってたまらない。(権・四声字典 p. 6)

。紮=箇 Zhá 𢀓 Y cha²

駐屯する。

「駐紮」駐屯する。「駐營」同上。「部隊紮在山上」部隊が山上に駐屯している。(簡約中日辞典 p. 565)「他說这封信是現在駐紮新嘉坡的領事官朱躍甫託他給您帶來的」彼の言うには、この手紙は現在シンガポールに駐在する領事の朱躍甫さんが、彼に托してあなたに寄せられたのだそうです。(談論新篇 p. 54)

。喳 Zhā ㄓㄚ̄ ㄔㄚˊ

応答の声、ハイ、ハア、満洲人が多く用いたもので、丁寧な返答で、北京及びその附近で行われたが、今はあまり用いられない。「喳、不錯」ハア、そうです。

。𠵼 Chā ㄔㄚ ㄔㄚˊ

小声で話をする、ささやく。「打𠵼𠵼兒」ささやく。「𠵼𠵼𠵼𠵼」物をこまかく砕く音、カチャカチャ。

。渣 Zhā ㄓㄚ ㄔㄚˊ

滓(かす)、おり、こまかく砕かれた破片。「渣子」かす。「渣滓」同上。「茶叶渣」茶から。「豆腐渣」「卵の花。「冰渣兒」氷のかげら。「煤渣兒」石炭の粉末(未だ火に入れないもの)。「餡餅渣兒」菓子屑、マンジュウの粉。

渣° Zhǎ ㄓㄚˇ ㄔㄚˊ

これも前項のように、破片または屑の意味で、俗に「炸」の字と同じに用いられる。疵(きず)、缺点。

「煤渣兒」すでに焼かれた石炭屑。「这个东西有了渣兒了」この品は疵物だ。(権・発音字典 p.7)「我也知道是这么个渣兒」私もこのような疵(難点)を承知しています。

°炸 Zhá ㄓㄚˊ ㄔㄚˊ

てんぷらにする、多量の油で物を揚げる。(少量の油でいためるのは「炒」を用いる)「炸丸子」豚肉をたたいて団子にして油で揚げた料理。「炸豆腐」揚げ豆腐。「炸醬」油で煎った肉をまぜた味噌。「油炸果兒」うどん粉に卵をまぜてねって細長く、または環状

にして油で揚げたもの。「炸醬面」うどんに油で煎った味噌をかけた料理。「把这块肉炸一炸」この肉を油で揚げなさい。

炸。 Zhà ㄓㄚˋ ㄔㄚˊ

(1) 破裂する。(火または熱のため、ものが破れる意味に用いられる)

「炸彈」爆彈。「炸藥」爆薬、ダイナマイト。「炸破」破裂する、割れる。「灯罩兒炸了」ランプのホヤがわれた。

(2) 爆発する(火薬で)、爆破する。

「炸击」爆発物で攻撃する。

(3) 怒る、あばれる。

「他一听这话，就炸起来了」彼はこの話を聞くと、急に怒りだした。(簡約中日辞典p.447)

詐° Zhǎ ㄓㄚˇ ㄔㄚˊ

特に北京で俗に遠廻しに言うか、または人をだまして、ある事情を探るとき用いられる。

「詐出来了」ある事の内容を探り出した。「我詐出他的实话来」私は彼れから実状を探りだす。(簡約中日辞典 p.693)「他詐了我的秘密去了」うっかりして彼れに秘密を探られた。

詐。 Zhà ㄓㄚˋ ㄔㄚˊ

いつわる、だます、ゆする。

「詐財」金銭をかたりとる。「詐騙」かたりとる。「詐病」仮病(けびょう)。「詐冒」偽造する。「詭詐」狡猾、奸悪なる。「詐善」偽善。「欺詐」あざむきだます。「奸詐」ずるい。「詐言詐語」嘘ます言葉、虚言。「藉事詭詐」事に托してゆする。「想不到他設这么个毒计策上这儿詭詐来了」彼はこんな悪だくみをして此処へゆすりに来たとは思えもよらなかった。

2. cha 𐄂𐄂 ch'a

・差 chā 𐄂𐄂 ch'a¹

差 (数のさ), 万物の差, 違い, やや, おおむね。

「差別」わかし。「差異」ちがい。「時差」時差。「差額」差額。「差錯」あやまり, 間違い。「差悞」同上。「不差甚么」おおよそ。「一差二錯」一寸としたまちがい。「八与五之差是三」8と5の差は3である。(中日字典 p. 211)「差強人意」いささか人意を強くする。「差幸」いささか幸とする。「差勢」様子が違う。「差輕」やや軽い。「差脚」足をふみ外す。「没有差錯」あやまりなし。「事情辦的倒没有差錯」仕事の取扱方には別に誤りはない。(井上・新字典 p. 12)「一差半錯誰没有呢」僅かの誤りは誰でもある。(井上・新字典 p. 12)

・差 chāi 𐄂𐄂 ch'ai¹

職, 役目, さしつかわす, つとめ。

「差使」役目。「派差」役人を遣わす。「当差的」役人。「聽差的」召使。「差滿」役がおわる(海外派遣の役人の任期の満ちた場合, 国内において役人の満期の場合は「俸滿」を用いる)。「出差」出張する。「信差」飛脚。「差委」さしつかわす。「差務」勤務。「外差」地方勤務。「他是有官差去的」彼は公務のため往くのです。「公差官役」官命により派遣された役人。「公差們把這件事詳細的回報知県」役人達は, この事を詳細に知事へ復命した。(聊齋・話本・向杲 p. 34)「我交給你一檔子差事你給我去辦吧」私は君に一つの公用をたのむから, 君は私に取扱ってくれ。(聊齋・話本・向杲 p. 49)

・差 cī 𐄂𐄂 tz'u¹

高低が等しくない, 乱雑, 差別, 区別, 入り乱れた, 不揃いな。(殆ど左の一文語の場合に限りこの音を用いられ, 口語の場合は重に間違いの意に用いられる)

「参差」(𐄂𐄂𐄂𐄂)不揃な。「参差不齊」不齊一な。「等差」等級の順序(「等次」に通用する)。「这一排椅子放得参差不齊」この一とならびの椅子は置きかたが乱雑で揃っていない。(中日字典 p. 211)「若有参差不齊实在对不起您哪」もし間違・錯誤があったら実にお申訳ありません。(権・発音字典 p. 276)

・差 chà 𐄂𐄂 ch'a¹

ちがう, まちがえる, あわない, 劣る。(動詞のときは(4)声を用いる)

「差不多」大差がない, おおよそ。(この場合(1)声でもよい)。「差得遠」大変な相違。「写差了行」行を書きまちがえた。「差一点儿没(要)死」もう少しのところで死ぬところだった。「走差了路」道を行きちがった。「还差一个人」もう一人たりない。「身分差着哪」身分がちがう(劣る)。「差了气」体の筋をちがえた。「差得天地懸隔」大きなへだたりがある。「差之毫厘, 謬之千里」はじめ寸毫の差も末には大きなあやまりとなる。(談論新篇 p. 2)「他因為没有読好多書, 底子差, 写作時往往遇到不会写的字」彼は沢山書物を読んでないため, 基礎が充分できてないので, 書き物をするとき, おうおう書けない字に出くわした。(現中初級読本 p. 124)

・挿 chā 𐄂𐄂 ch'a¹

花などをさす, さしこむ。

「把花儿插在花瓶裏頭」花を花瓶にさす。「東

西挿上草標是売的」品物にわらの枝折（値段のしるべ）をさしこんでいるのは売物である。

・挿 chá ㄔㄚˊ ch'a²

つめ込む（箱などの中の品物の動揺を防ぐため）。

「把東西挿在箱子里頭」品物を箱の中へつめ込む。「拿紙挿敲了不叫東西搖幌」紙を嚴重につめ込んで、品物をゆすぶれないようにする。

・叉 chā ㄔㄚ ch'a¹

尖端の分かれたもの、肉さじ、くまで、交わる、また、分ける、組合せる。

「叉子」フーク。「叉手」手をこまねく。

「叉腰」両手を腰にあててささえる。

・叉（変） chá ㄔㄚˊ ch'a²

さえぎる、ふさぐ、通さぬ。

「骨頭叉在嗓子裏」骨が喉にささった。

叉・（俗） chǎ ㄔㄚˇ ch'a³

北京地方で俗に下の場合。

「打叉」補修する。

・岔（変） chá ㄔㄚˊ ch'a²

俗に下の場合に用いる。

「車岔住了」車が多くて道一杯にふさがっている。「説岔了」意見が衝突して口論する。

「找岔了」人または物の缺点を探す。「他們説岔了，打起架来了」彼等は話が行きがちがって喧嘩を始めた。（急就篇 p. 119—10行）

岔・（変） chǎ ㄔㄚˇ ch'a³

俗に下の場合(3)声を用いる。

「岔着腿兒走」大腿に歩く。「兩個人走岔批了」二人は互に行き違いになった。「肋岔子」

横腹。

岔・（正） chà ㄔㄚˋ ch'a⁴

わかれ道、道をふみ違える、三叉路、気を紛らす、くいちがう、そらす、はぐらかす。

「岔道兒」わかれ道。「出岔」障害が生ずる、ごたごたが起る、邪魔が入る。「三岔路」三叉路（三つまた道）。「向南岔下去」南へそれていく。「走岔了道儿」道をふみちがえた。

「岔了气了」気をまぎらす。「拿話岔了」言葉でいいまぎらす。「您又説到旁岔兒去了」君の話はまた横道にそれた。（井上ポケット字典）「打了一个岔」話の腰を折った。「賊得声儿都岔了」どなったのですっかり声がかわった。（中日字典 p. 206）「想来你們走岔了路的，我也饒你們」定めしおまい達は路を間違えたのであらうから、おれもおまい達を赦してやる。（急就篇 p. 113—5）「這一幫年輕人只要湊在一塊兒呀，説不了多大会兒正經事情，就岔出去啦！岔到那兒去啦？」この若い人の仲間が一緒に集りさえすれば、長時間にわたって、とてもまともなことばかりは話せない、話がすぐそれてしまう。何処へそれていったのだろう。（聊齋・話本・向杲 p. 2）

3. Zhai 𪛗𪛗 chai

。摘（俗） Zhāi ㄓㄞ chai¹

つむ、もぐ、分ける、やりくりする、ぬぐ、おろす、選ぶ、借りる、はずす。

「摘果子」果物をとる。「摘帽子」帽子をぬぐ。「把眼鏡兒摘下来」眼鏡をはずす。「東摘西去」やりくりする。「我来找您是和您摘兌一筆款子」私があなたをお伺いしたのは金を融通して貰いたいのです。（現代模範官話 p. 26—11）「摘給我十塊錢」私に十円融通

して下さい。「把鞍子摘下来」鞍をおろす。
「摘頂」官帽の“頂子”をりあげる（官吏の懲戒処分）。「摘不開身」身を離されない。

「那個時候撫台就出了參了，把他的頂戴摘了給他幾個月的限，還留在任上叫他趕緊的拿賊」その時巡撫（省長に当る）はすぐに弾劾書を出し，上奏して彼の頂戴（役人待遇）を取上げ，彼になお数ヶ月間の期限を与えて，現職に留めおいて，急ぎ賊を逮捕せよと命令した。

（頂戴とは旧中国の官帽の頂きに飾りつけた径七八分の珠で，官吏の品位によって，その類を異にした）（官話指南 p. 78—11）「去拜望朋友，進講堂甚麼的時候兒並不摘下帽子来，就一直的進屋裡去，滿洲人把這個看做是一件常行兒的事」友人を訪問したり，教室へ這入ったりするとき，帽子をぬがないで，そのまま部屋の内にはいることは滿洲国人はあたりまえの事としている。（飯河・日滿交際礼法 p. 168—3）「来到妓院的門口兒一看，果然把写着瑞云名字的牌子摘下去了」妓楼の入口にやって来て見ると，はたして瑞云の名を書いている鑑札がはずされている。（聊齋・話本・瑞云 p. 38）

摘・(文) tì ㄊㄧˋ tí ㄊㄧˊ

指摘する，あばく，かかげる，ほじる，挑発する，拾う。摘の字に通じる。

「指摘」指摘する。「挑摘」一々指摘して秘密を暴露させる意味で，口語にも用いられる。「摘姦発伏」姦をあばき，伏を発く。（人の悪事を摘発する意）

〇 択 Zhái ㄓㄞˊ chái ㄔㄞˊ

選ぶ。北京の俗音で，口語では殆どこの音のみを用いる。

「択出来」よりぬく。「択淨了」全部のこら

ずきれいに選んだ。「択一個好的」一つよいのを選ぶ。「択個空兒」余暇を見出す。「択手貨」随意に選択して取ることの出来る品物。

「弄了個魚頭来叫我択」むづかしい事を私に押しつける。「他有択席的毛病」彼は場所がかわると，ねむれない癖がある。「択一個好日子起身」吉日を択んで出立する。

〇 択 (文) zé ㄗㄛˊ tsé ㄘㄛˊ

えらぶ。この音は（ㄘㄛˊ）音と同義で文語のみに用いられる。

「选択」選択する。「択食」より食いする。

「択交」交りをえらぶ。「択吉」よい日を選らぶ。「択期」期日を選らぶ。「択定」選定する。「飢不択食」飢えては食を選らばず。

「不択手段」手段を選ばない。「択鄰而居」善隣を選らんで住居する。「択木而棲」鳥は木を選らんですむ，臣は主を選らんで仕える。

「牛羊何択」牛羊と何んぞえらばん。「聖人説三人同行必有我師，並沒説隔着国的人不足為我師呀，要緊的是択其善者從之」聖人も三人同じく行えば必らず我が師ありというている，決して他国人を我が師と為すに足らないとは言わなかったではないか，要するにその善なるものを択んで，それに従うことにあるのだ。（談論新篇 p. 68—9）

4. Zhang ㄓㄤ ㄔㄤ

〇 掌 (俗) Zhāng ㄓㄤ ㄔㄤ

下記の場合は俗に（1）声にも用いられる。「掌櫃的」支配人，番頭，頭取などの総称。

〇 掌 (正) Zhǎng ㄓㄤ ㄔㄤ

手のひら，たなごころ，つかさどる。

「巴掌」手のひら。「鼓掌」手をうつ。「釘

掌」蹄鉄をうつ。「掌舵」舵をとる。「掌財政」財政を司どる。「掌櫃的」支配人（この場合前項(1)声にも用いられる）。「掌灶的」料理人，コック。「掌管」管掌する。「掌故」一国の文物制度。「掌尺」職長，棟梁。「掌作的」同上。「掌中明珠」掌中の玉（最愛の子の譬）。

長° Zhǎng 虫亢 chang³

かしら（長），目上の，進歩（増進），成長（そだつ），あがる（相場），できる（はえる），すぐれる。

「家長」家長。「站長」駅長。「校長」校長。「師長」目上の人，先輩，先生。「長輩」先輩。「長上」目上。「長者」同上。「長兄」一番上の兄。「長子」長男，そうりょう。「長進」進歩する。「他是秘書長麼」彼は秘書長ですか。（急就篇 p. 40—9）「怎麼老是不長進呢」（吉野・支那語基礎 p. 157—8）「長見識」見識がたかまる。「飲食見長」食欲が進む。

「生長」おえそだつ。「這個女孩兒長得很好看」この女の子は容貌が大変綺麗だ。「長成人了」一人前に成長した。「麦子長了」麦はのびた。「長価」値あがり。「長錢」同上。

「行市長了」相場があがった。「長了行市」同上。「房錢比往年長得多」家賃は以前よりずっと高くなった。「長了鏹了」さびがでた。「長了毛了」かびが生えた。「長了疙疸」おできができた。「總還是有長無落罷」どうせ昂るとも下りますまい。（官話指南 p. 3—11）

「年歲不過剛剛過了二十歲，模樣兒長得是出人頭地的漂亮」年のころはまだやっ二十歳をこしたばかりだが，容貌は人並すぐれて綺麗にそだっている。（聊齋・話本・向杲 p. 3）

「房德是因為自己運氣背說甚麼都不響，沒法子事事就都護着她，她得了這個意了，所以更

長起行市來了」房德は自分は運勢が悪く，何を言うても相手にされないの，仕方なく万事かの女（妻）の言うがままにまかせた，妻はそれをいいことにして，愈々のさばりだした。（官話・今古奇觀 p. 76—1）「按情理本官应当加罪於你，念你兄長被人打死，兇手尚未查明……」道理から言えば，本官はおまいさんを当然罪に処すべきだが，おまえさんの兄が，人に打殺されて犯人が未だ判明しないことを思うて…。（聊齋・話本・向杲 p. 39）

「在平安的時候兒，貿易場中所有商務的情形，貨價的長落電報一伝各国皆知」世の中の平和なときには，商業場裏の総て商売の情況，物価の上り下りなど，電報で一度知らせると，各国で皆な知ることができる。（談論新篇 p. 66—7）「向杲低頭一瞧哇，身上長毛啦」向杲はうつむいて見ると，自分の体に毛がはえていた。（聊齋・向杲 p. 61）「提起這個傢伙的長像呀，哈哈！別瞧他穿戴的好哇，誰瞅見誰都得惡心」この野郎の恰好（すがた）を言うなれば，ハァハァ，彼の身なりのよいのはぬきにして，誰が見たって胸が悪くなる（聊齋・話本・向杲 p. 20）「倘要我尋出這些事的影響來說，便只是增長了我的壞脾氣，老实說，便是教我一天比一天的看不起人」もしも私にこうした事件の影響をさがし出して話せといわれたら，それはありていに言えば，つまり日ごとに人を見さげることが教えてくれた。（現中・中級読本 p. 19—4）「遠遠地就看見那邊有一座廟，長起身來往前一瞧，這廟的地方還真不小」遠くから向うの方の一軒の寺のあるのを見て，脊のびして前方を見ると，その寺の境内は大分広い。（聊齋・話本・勞山道士 p. 4）

長。Zhàng 𠂔𠂔 cháng⁴

余分,あまり,長物(やくに立たないもの)。「長物」余計なもの。「長一尺」一尺あまる。「長此以後」今後。(この場合は今は(1)声を用いる。

漲^〇(俗) Zhǎng 𠂔𠂔 chāng³

この音は上記の「長」に通ずる俗音である。「漲潮」潮が増す,入潮。「水漲得很利害」増水が大変ひどい。「米的行市又漲了」米の相場がまたあがった。「漲落」上り下り(物価相場・汐の干満)。「近日某貨來數不多而需要者甚衆,故行情大漲……」近來某貨の入荷少数の処,需要する人が非常に多い為め相場が大いに騰貴し……。 (吉野・商業尺牘教本・第13課)

漲。Zhàng 𠂔𠂔 cháng⁴

ひろがる,ふくれる,拡大する,増大する。「高漲」高漲する。「漲發」水の横溢する(洪水など)。「漲滿」水があふれていっぱいになる。「水漲起來」水が漲り出す。「黃沙漲天」黃塵が空にひろがり,みなぎる。「生產高漲」生産が増大する。「河水漲出來了」河の水が増しはじめた。

5. chāng 𠂔𠂔 ch'ang²

・長(長) cháng 𠂔𠂔 ch'ang²

長い,遠い,久しい,長さ,すぐれる,長所,いつも。「長江」揚子江。「長城」万里の長城。「長虫」蛇。「長髮賊」太平天国を建てた洪秀全の一味。「長活臉」瓜ざね顔。「長舌」多弁な。「長短」長短,善惡,是々非々。「長生」

長寿,長く生る。「天長」日ながい。「長久」ひさしい。「長支」給料の前借。「長工」常傭労働者。「長存」定期預金。「長主顧」常得意。「長日」常に,絶えず。「長年」年中,永い間。「長材」才能ある人。「長遠」永遠。「長円」だ円。「説長道短」かれこれ噂をする。「長享富貴」長く富貴をうける。

「長裡下有二尺」長さ二尺ある。「这根棍子有五尺長」この棒は長さが五尺ある。「他長于英国話」彼は英語にすぐれている(彼は英語が上手だ)。「我不長于做買賣」私は商売のみちにたけていない(私は商売が下手だ)。

「各有所長」それぞれ長所がある。「揚子江長有幾千里」揚子江は長さ数千里ある。「各人有各人的長處」人はおのおの長所がある。

「怎麼着也得把你們成全了,叫你們天長地久白頭到老」どうあっても矢張あなた達二人の仲をまとめてあげて,あなた達を末永く共白髪まで添わせてやらねばならぬ。(聊齋・話本・向杲 p.14)「惡霸莊公子帶着惡奴們揚長而去」ボスの莊公子が惡漢供を引連て大威張りで立ち去った。(聊齋・話本・向杲 p.28)

「一來是顯得太窩囊了,二來這也不是長久之計」一つには,あきらかに不遇な始末であり,二つには,これは矢張永遠の策ではない。(聊齋・話本・向杲 p.48)「新旧思想的矛盾常常要引起当事人很大的苦惱,甚至於引起一時的或長久的消沉」新旧思想の矛盾は常に当事者に非常に大きなやみを引起し,甚しきに至っては一時的の或はひさしい間意気を消沈させることさえある。(現中・中級読本 p.92)

「雖然說這會兒天長了,走來走去也就快黑了」この頃日は長いとはいえ,行ったり来りしてゐるうちに,日暮になってしまった。(聊齋・話本・云翠仙 p.5)「掏出來長長的一個紙

包，上辺蓋了封信」長い長い一つの紙包を取
出して，その上に一通の手紙をのつけた。

(聊齋・話本・王者 p. 38) 「過渡時期需要
經歷一個相当長的時間，究竟多長，這要看全
國人民對於社會主義工業化 and 社會主義改造的
努力和成就」過渡時期は相当に長い時間の経
験を必要とする，結局どれ程の間かという，
全国人民が社會主義工業化と社會主義改造に
對する努力と成果の如何にかかっている。(現
中・中級読本 p. 101)

• 倡 chāng ㄔㄨㄥˊ ch'ang¹

みだれる，くるう，樂人，妓女。古は「娼」
の字と共通された，また「猖」に同じ。

「倡妓」遊女。「倡婦」同上。「倡伎」同上。

「倡狂」はげしくくるう。「倡楼」妓楼。「倡
子」役者，芸妓。「倡優」役者（倡は女優，優
は男優）。

倡。chàng ㄔㄨㄥˋ ch'ang⁴

提倡，即ち「唱」の字に通用する。

「提倡」提唱する。「首倡」發起する。「倡
言」提言する。「倡和」唱和する。「倡率」
引率する，ひきいる，つれだつ。「倡導」唱
導する，となえ導く。「倡始」となえはじめ
る。「倡隨」夫婦相和す。「夫者倡婦者隨」
夫唱婦隨，夫婦の睦しいこと。(井上・中国
辞典 p. 32) 「對於耕種無論如何提倡總不見有
甚麼進步」耕作に對して，どんなに奨励して
も，全く何等の進歩も見られない。(最新談
論篇 p. 46—5) 「農商部曉得這個消息，通令
各省提倡土產以資補救」農商部は，その消息
を聞いて，各省に訓令して土産藍を奨励して
補救することにした。(官話談論篇 p. 142—4)

• 場 (変) cháng ㄔㄨㄥˊ ch'ang²

政界・学界というような界に相当する無形

の場所を指示する，また雨・病氣・訴訟・
夢などの量詞。

「官場中」官界。「買売場中」商業社会。「収
場」結果，末路。「一場雨」一回の雨。「這一
場大病」この度の大病。「一場暴雨」一度の
俄か雨。「打了一场官司」一回訴訟した。「好
些日子没雨了，得下一場」久しく雨が降りま
せん，一湿り欲しいものです。(急就篇 p. 72—
4) 「這都是賣洋藥的収場」これは皆な阿片商
売の末路なのです。「趕後來他忽然得了一场
病」後になって彼は突然病氣に罹った。(官
話指南 p. 63—3) 「不過這個夢太怪，父子一場
……」ただこの夢があまりに不思議なのは，
父子の関係であることだ。(聊齋・話本・夢
狼篇 p. 13) 「準知道自己的丈夫万也躲不過這
場災難」わが良人がどうしても，この災難を
避けられないことを，よく承知する。(聊齋
向杲 p. 40) 「唉，空喜欲了一场，原来是場夢」
アア，一遍そら喜びをした，夢だったのか。
(向杲 p. 69)

場。chǎng ㄔㄨㄥˇ ch'ang³

有形の場所，多数人の集るところ，實在の
場所，（下に他の文字の連続しない名詞は
俗にこの(3)声を用いる）。

「場子」場所。「操場」運動場，練兵場。「跑
馬場」競馬場。「東安市場」北京東城の市場。
「試場」試験場。「牧場」まきば。「勸業場」
勸工場。「囲場」狎場。「空場」空地。「進場」
試験場にはいる。「上場」舞台に出る，また
舞台から見て左側，登り坂（勢力などの）。
「走場」芝居の道具方。「下场」舞台からお
りる，また舞台から見て右側，職を去る，事
の終り目，降り坂（勢力などの）。「場院」広
場，土間，収穫の穀物を乾す場所。「場面上」
場面，局面。「上場瘟」平素自信があっても

実際の場合にまごつくこと、経験がないので事をなすに当って慌てること。「總是下場好，上場有那個鑼討厭」どうしても、舞台は右側がよい、左側はあの銅鑼の音がうるさい。(官話指南 p.185—2)「趕來到屍場這兒看見，哥哥的死屍……」殺された場所へやって来て，兄の死骸を見て……。 (向杲 p.39)「下了班，可以上球場，打打籃球，排球」職場を退出してから，球場へバスケットボールやバレーボールをしにゆける。(現中・初級読本 p.50)

6. Zhao ㄓㄠˊ chao

。着 zhāo ㄓㄠˊ chao¹

(1) 計画。

「失了一着」失策した (一と失敗)。「錯了一着」一目誤る (暮など)，一つ間違う。以上は計画の悪かったため失敗した意。

(2) 方法。「好着兒」・「高着兒」よい方法 (以上は考え，または高見の意)。「没着兒」全く方法はない。「三十六着走為上着」三十六計逃げるにしかず。

(3) 着着と，だんだんに。

「人家是步步兒爭先，我是着着兒落後」人さんはザリザリと先に立ち，私は段段と人後に落ちる。

(4) 受ける，苦しむ，蒙る。

「着慌」あわてる。「着急」気がせく。「着涼」風邪。「着惱」煩悶する。「着氣」怒る。

(5) 逢う。「着雨」雨に逢う，雨にかかる。「前不着村兒，後不着店兒」人家のないところ。「是是是，算我一時着急，說錯了話」そうそう，私は一寸気がせいで言い違えました。

(聊齋・向杲 p.33)「応山歌姑娘呵！她又是着急又是難過」山彦姫，かの女はあわてもし，また悲しみもした。(現中・初級読本 p.

94)。「穿布衣裳戴布帽子所以衛文公才把国家興起来了，可見得儉省是治國的好着兒」木綿の衣物を着，木綿の帽子をかぶったからこそ衛の文王は国を興した，それによっても如何に儉約が国を治める良法であるかがわかるだろう。(急就篇 p.98—9)「凡做事總得先人一著，若走了後手，就步步趕不上了」すべて事をするのにどうしても，人に一步先んじなければならない，若し人の後について行くなら，漸次追えつけないくなる。

。着 zháo ㄓㄠˊ chao²

(1) 接触する，つく。「找着了」探しあてた。「睡着了」寝ついた。「買着了」買えあてた。「打着了」打ちあたった (弾丸などが)。以上は動詞の決着を示すもの。

(2) 火がつく，燃える。「点着」火をつける (煙草など)。「着火」火事になる。「火都着上来了」火がすっかりついた。

(3) 目的達成の意，動詞と複合して，その可能・不可能の意。

「猜得着」いいあてることが出来る。「猜不着」いいあてられない。

(4) 対照する。「着对」対照する。「着重」病気が重くなる，重きをおく。

「你聽我告訴你說，一句話裏頭，總有一兩個着重的地方兒，把那個字重念，自然就受聽了」私は君に言うて上げるが一句の言葉の中には必らず，一二個所大事な処がある，その字の調子を強めれば自然ききよくなる。(急就篇 p.187—10)

。着 zhuō ㄓㄨㄛˊ cho¹

継続した状態，動詞に附屬して現在進行の時をあらわす助字。(1) 何何している，ちようど……しておるところだ。

「走着」あるいている。「等着」待っている。
「站着」立っている。「開着会呢」会を開いている。「他还活着呢」彼はまだ生きている。
「屋裡坐着呢」部屋に坐っている。「説着話呢」話をしている、お話中。「我找着你呢」私は君をさがしているところだ。

(2) 持続の状態を表示する、定着した状態・動作を表わす接尾辞。

「桌上放着一本書」机に一冊の本がおかれてある。「牆上掛着一幅画」かべに一幅の画がかけられている。

(3) 形容詞の後におかれて程度の深さを表示し、常に「呢」を連用する。

「好着呢」とてもよいですよ。「苦着呢」とても苦しいですよ。「河岸上的景致好看着的呢」河岸の景色はとても立派ですよ。

(4) ……しながら……する、前者が後者の方法状態を形容する。

「走着回去」歩いて帰る。「你挨着我坐罷」あなたは私のそばに坐りなさい。「焼着吃」焼いてたべる。「快着走」はやく歩く。

(5) 動詞の後について、前の動作が後の形容詞を修飾する。

「説着容易，作着難」いうのは容易だが行うのはむづかしい。

著。zhù 出 ㄔㄨˋ

あきらか、あらわす、のべる、しるす。
「著名」有名な、名のあらわれる。「昭著」あきらかな、はっきりした。「著作」あらわしつくる。「編著」編著。「土著」どちゃく、定住する。「在這個妓院裏有一個著名的妓女，名字叫波斯」この妓楼に一人の有名は妓女がいて、名は波斯という。(話本・聊齋・向果p. 3)「城東面有著名的宝塔山，山上有高聳的宝

塔一座」まちの東方に有名な宝塔山があって、山上に高くそびえたった寺院の塔がある(現中・初級読本 p. 79)「再説京裏的民人，現在雖然都是北京人，可是原來並不是本京土著，多一半兒都是江南浙江的籍貫」それから北京の人民は今ではみな北京人であるとはいうものの、元来はこれも北京土着ではなく、過半はみな江蘇，安徽，浙江の籍にあったのである。(官話談論新篇 p. 28-10)

7. Zhe 出 ㄔㄨˋ chē

折 zhé 出 ㄔㄨˊ chē²

割引する、換算する、挫折する、加減する。失う。

「折扣」割引する。「概無折扣」一切割引なし。「這個東西有折頭没有」この品物は割引がありますか。「照価八折」定価の二割引。

「按着七折算」七割勘定です、三割引の計算です。「対折」五割引。「折損」差引しての損。「九五折(扣)」五分引。「折變」物を金に換える。「折賬」帳消にする。「折實」実物換算。「他欠我的錢將這器皿折給我了」彼は私から借りた金を、この食器で金の代りにくれた。「這錢是当壳折變来的」この金は売るものとして換算したのです。「折衷」折中する、加減する。「夭折」早死する、若死する。「折了本錢」元手を損した。「挫折」挫折する。「折磨」虐待する、苛める。「為什麼小時聰明大時又不聰明呢？就是当他聰明露出来的時候，便自恃聰明不好好用功，聰明也夭折了」どうして小さい時はかしこいのに大きくなって、かしこくないのか？ほかでもない、その人が賢明さが、あらわれてきた頃に自分で自分の賢明を鼻にかけて充分に勉強しないから、その賢明さも、また早死する

のです。(現中・初級読本 p. 86) 「她是個勤勞美麗的姑娘，大家都把她愛在心上，偏偏她的公婆，對她百般折麼」かの女はよく働く，美しい娘である，大勢の人がみな心中かの女を愛した。あいにく，かの女の姑（しゅうとめ）がかの女をさまざま虐待した。(現中・初級読本 p. 93)

。折 zhē ㄓㄝ ㄔㄞˊ

下記の語に限り，俗に(1)声を用いる。ひっくりかえる，ひっくりかえす。

「折觔斗」もんどり打つ，トンボがえりする，“打觔斗”と同義である。「把湯碗折了」スープ皿をひっくりかえした。「觔斗虫兒来回來去的折觔斗很有趣兒」ボウフラは行ったり来たり，とんぼがえりして大変面白い。(権・四声典字 p. 16)

。折 shé 尸ㄝˊ shē²

物の折れる意味に用いる。

「折了」折れた。「打折了」打折った。「竿子折了」竿が折れた。「胳膊折了」腕が折れた。「胳膊折了在袖子裏」自己の家庭，その他の缺点を人に知らしめないという成語。

「賀生把当標折了折，掖在口袋里，把銀子帶好了，出門往家里走了」賀生は質札を折て，ポケットにはさんで，金を大切に持て門を出て家に帰った。(聊齋・瑞云 p. 11)

8. Zheng ㄓㄝ ㄔㄞˊ chēng

。正 zhēng ㄓㄝ ㄔㄞˊ

歳のはじめ，弓のまと，正月（陰暦のとき，陽暦のときは一月という）。

「正月」旧暦の正月。「正鵠」まとのまんなかのくろぼし，物事の要点。

正° zhěng ㄓㄝ ㄔㄞˊ chēng³

整数で端数のない意，整の字の代用に，この(3)声を用いる。

「一百元正」百元也(元以下端数がないという意味)。「正宿」終夜。「正莊」卸屋。「正白」・「正藍」・「正黄」以上みな清朝八旗の一。

正。(正) zhèng ㄓㄝ ㄔㄞˋ chēng⁴

ただしい，ただす，ちょうど，まさに。「正經」正規の，正則な。

「正法」ただしい法，正統な法，また法をただす(死刑に処すこと)。「正是秋天」まさに秋だ，丁度秋だ。「大正十年」大正十年。「他為人正直公平」彼の人となりは正直公平である。「由打我進到妓院以來，所見到的這些客人們哪，沒有一位像這位先生這樣正派的」私が妓楼にはいつてから会った，多くのお客さんのうち，一人もこの人のように，こんなに品行方正な人はない。(聊齋・話本・瑞云 p. 16)

「来看看他的學問高低，二来赶上这样一位正人君子可以說是難得很，好像是在糞土之中發現了一顆珍珠！」一つには彼の學問の程度の高いことが見られるし，二つにはこんな一人の正しい道をあゆむ君子に出会うことはまことに得がたいというべきであって，まるで肥壺(泥まじりの肥料)の中から真珠を見出したようなものだ。(聊齋・読本・瑞云 p. 16)

。挣 zhēng ㄓㄝ ㄔㄞˊ chēng¹

病氣その他で，氣力の及ばないのを無理に我慢してつとめる意，頑張。

「扎挣」我慢する。「扎挣不住」我慢できない。「頭暈眼花，很有些扎挣不住」頭がふらつき眼が眩んで全く我慢しきれない。(木原

・適用支那語解釈 p.153—1)「身上有点兒不舒服,我是強扎掙着来的」体の具合の悪いのを無理に我慢してやって来た。(適用支那語解釈 p.153—5)「在草叢裏掙扎了好長時間,才擰身站了起来」草むらの中で長い時間我慢して、やっと体を突張て立ち上った。(聊斎・話本・向杲 p.68)

掙。zhèng 虫厶 chēng⁴

金をもうける(労力や能力で)、かせぐ、必死になって……。

「掙錢」金をもうける。「掙命」いのちがけ、必死になってあがく。「掙開」振りきる、力を込めて体の縛りなどを脱出する意。「掙開袖子跑了」袖を振り切ってにげた。(井上・ポケット字典 p.57)「你一天掙多少錢」君は一日働いてどれ程お金をもうけるか?「您在哪舖子裏耍手芸一個月掙多少工錢」あなたはあの店で手仕事をして、一ヶ月どれだけ工賃をもうけますか。(吉野・華語教程 p.70—5)「先頭裏開過一個小木廠子,後來也開了,如今是竟仗着給人家做活,掙錢來過日子」以前小さな材木屋を開いていたが、その後、それも閉じて、今はただ人様の仕事をして、それで金を儲けて暮している。(官話指南 p.65—8)「再若是一開五金的礦產和煤窖甚麼的,所有那無營業的窮民,都可以到礦廠地方兒做工去,就都能掙吃掙穿的了」さらに若し、一たび金属の鉱山や炭坑などが開かれるようになれば、多くの職業を持たない貧民たちは、みな工場へ行って仕事をして、金を儲けて生計をたてることが出来ます。(談論新篇 p.85—5)「一家三口人,兩個人掙錢,天天大米白麵足夠吃」一家三人家族で、二人が働いて金を儲けるので、食べるのに充分だ。(現中・初

級読本 p.41)「揺錢樹一倒,不能給她掙錢啦」金のなる木(ドル箱)を失うて、かの女に金を儲けてやることが出来ない。(話本・聊斎・瑞云 p.34)

9. cheng 彳厶 ch'êng

・称 chēng 彳厶 ch'êng¹

呼ぶ、いう、ほめそやす、はかる、あげる。

動詞のときは(1)声を用いる。

「他怎麼称呼」彼は何んという名まえか。「外号人称二諸葛」あだなを人は二諸葛(第二の孔明)といえます。「称讚」ほめそやす。「称許」同上。「称美」同上。「称頌」同上。「称揚」同上。「称引」陳述する。「称道」ほめていう。「称嘆」同上。「称物」物の目方をはかる。「称貨」商品の重さをはかる。「称驗」秤ではかってしらべる。「称称」目方をはかる。「把這塊肉称一称」この肉をはかりではかりなさい。「称貸」金をかして利子を取る。「称兵」兵を起す。「据称」言うところによると。「他可以称得起是聖人」彼を聖人と称えることが出来る、彼は聖人と認めるに足る。「後來若是運氣好,佔住一個山寨,可以称孤道寡」後日もし運勢がよければ、山のとりてに佔居して頭(王侯・君主)となることができる。(官話・今古奇觀 p.81—12)「這回的傷風不止我們国,凡是各国都有,可以称做是世界風了」こんどの感冒は我国ばかりでなく、すべて各国がかかりました、世界風と言うてもよいです。(宮島・支那語會話篇p.117—8)「双親有一位在世的,不能称孤哀子,可是父親死了,母親還活着是不对了,所以命他的兒子称孤哀子,如同自己死了一樣」両親の内いづれか一方が存命している人は、孤哀子と称

し得ないのであるが、しかし父親が死後母親が自分が生きている事が当を得ないという意味で、母親が自分からその子に命じて孤哀子と称えさせて、自分が死んだも同然にあつかわせるのである（孤子は父親のない者の自称、哀子は母親のない者の自称）（最新官話談論篇 p. 70）「真可以称得起“雄赳赳，气昂昂”」本当に武勇たけく、意気あがると云うてよい。（聊斋・話本・向杲 p. 50）「那可真称得上是我終生的一個遺憾」それは本当に私にとって一生の大なる遺憾な事と称すべきである。（聊斋・話本・瑞云 p. 11）「我今天在你們這裏，買了兩袋北京通粉，三十斤大米，拿回去一称，多了十斤大米」私は今日、君達の所から、二袋の北京規格の麦粉と三十斤の米とをかうて持ち帰って、はかりでかけて見ると米が十斤余計だった。（現中・初級読本 p. 38）「提起向杲来哪，大家更都很称讚他的忠厚跟勇敢…」向杲のことを言うと、多くの人は更に彼の誠意あり勇敢なことを皆ほめそやして……。 （聊斋・話本・向杲 p. 75）

称。 chèng ㄔㄥˋ ch'èng⁴

はかり、名詞のときは(4) 声を用いる。秤の代用となる。

「過称」はかりにかける。「拿称(秤)称(秤)一称(秤)」はかりで目方をはかる。

称。(俗) chèn ㄔㄣˋ ch'ên⁴

かなう、合う、釣合えとれる、上項の俗音でㄔㄣˋに発音すること多い。

「称心」心にかなう。「称意」意にかなう。「称心称意」同上。「称人意」人の気に入る。「称職」才能がその職に適する。「对称」両方相当する。「称身」身に合う（衣物など）。「有錢辦得称心事」金があれば思儘のことが

やれる。

盛。 chéng ㄔㄥˊ ch'èng²

もる（器物などに）、いれる、充たす、保持する。（動詞語）

「盛飯」ご飯をもる。「盛満」一ぱいにもる。

「盛不下」もりきれない。「這個房子盛不開這麼些人」この家はこんなに多くの人が住みきれない。「這個箱子小，盛不了這麼些個東西」この箱は小さいので、こんなに沢山の物がはいらない。「他嘴浅，一句話也盛不住」彼には口が軽いから、何事も言わずにおれない。（秘密を保ち切れない意味）「拿抹布来把桌子，再擦一擦，飯盛的這麼滿要浅着点兒」雑巾でテーブルをもう一度拭きなさい、ご飯はこんなに一杯にもっているが、少しかるいのがよい。（同文書院・華語萃編初集 p. 14—4）「咱們快瞧口棺木，先把爸爸盛殮起来，咱們張羅辦事吧」お互は急いで柩（ひつぎ）を用意して、まづお父さんの死体を納棺して、葬儀の用意をしましょう。（聊斋・向杲 p. 69）「每天吃飯的時候，盛着金黃色的玉米飯」毎日食事のときは、黄金色のトウモロコシの飯をもって……。 （現中・初級読本 p. 100）

盛。 shèng ㄕㄥˋ shèng⁴

さかんな、さかんである、盛大な、深厚な、華麗な、茂る、人の姓のとき。

「繁盛」繁昌。「強盛」国力の強大な。「盛饌」ご馳走（他人に対す挨拶）。「盛行」盛んに流行する、盛んに行われる。「盛興」盛んになる、勃興する。「茂盛」さかんなこと。「盛開」さかんに咲く。「桜花盛開」桜花満開。「盛夏」夏の最中。「盛美」立派な。「盛称」さかんにほめる。「盛名」名声の大なる、大名。「盛怒」大いに怒る。「盛事」盛大なる

事柄、また行為。「盛設」盛大なおもてなし（他人にご馳走になった挨拶）「盛宴」同上。「盛意」ご厚意。「盛情」同上。「盛恩」ご厚恩。「盛挙」美挙。「盛装」はなやかなよそおい。「盛服」同上。「果木長得很盛」果樹は非常によくのびている。「盛京」瀋陽、奉天。「盛先生」盛さん。「日増月盛」日に月にさかんになる。「四天的路程也不算近了，可是回家的心盛也就不觉着辛苦了，您府上的人大概都盼望的了不得了」四日間のみちのりは、近いとは言えないが、帰省する気持のうれしさに苦勞も感じないでしょう、あなたのお宅の人達も、みなお帰りを非常にお待ちのことでしょう。（同文書院・華語萃編 p.145—6）「咸豐年間長髮賊鬧的正盛，英法聯軍也到了北京了，皇上上熱河避難去了」咸豐年間に長髮賊の乱が最も猖獗を極め、英・仏聯合軍が北京へ乗込み、皇帝は熱河へ蒙塵された。（急就篇 p.133—4）「乾隆是清朝最興旺的時候兒，国富民殷，皇上南巡了兩盪，那算是個盛典」乾隆は清朝の最も隆盛を極めた時代であって、国は富み、民は栄え、皇帝は二度も華南地方へ巡幸された、これこそ盛儀というべきだ。（急就篇 p.133—2）「六億人民需要文学，文学就必昌盛」六億の人民が文学を必需とあれば、文学は必ず盛んにしなければならぬ。（現中・初級読本 p.113）「国運和人的運氣一樣有盛有衰」国運も人間の運勢も同じことで、盛衰がある。（急就篇 p.133—7）

10. jie ㄐㄧㄝˊ chieh

。咖 (変) jiē ㄐㄧㄝˊ chieh¹

否認の声、この音は(ㄐㄧ ㄩ)音と共に何れも通用する。

「不咖」否、いいえ、いけません、有難うござ座います（感謝して辞退することば。北京地方において、この音をよく用いられる。「不咖，不咖」いやいやそうじゃありません。「不咖了，改天請安」有難う、日を改めて、お伺いいたします。

。咖 jiā ㄐㄧㄚ̄ chiah¹

意義用法全く上項と同じ。

。咖 kā ㄐㄚ̄ k'ah¹

(ㄐㄚ̄)音の訳音。

「咖啡」コーヒー。「咖啡碗」コーヒー碗。

。結 jiē ㄐㄧㄝˊ chieh¹

果実が樹になる（実を結ぶ）、丈夫、壮健、口ごもる。

「結果子」実を結ぶ。「樹上結了許多苹果」樹に沢山の林檎がなった。「結実」丈夫、堅固、確実なる。「結巴」どもる、どもり。「巴結」こびる。この場合の「結」は俗に(ㄐㄧ ㄩ)にも発音する。「他的身体很结实」彼は体が大変丈夫だ。「那包果子，也没有多规矩，就是结果子的时候，我同他到园子里看一看，然後就商量包价是多少」果物を請負買えをするには、余計な条件はありません、ただ果実を結ぶ時節に、私はその人と果樹園に行って見た上で請負値段がいくらかを話合うのです。（官話指南 p.52—5）「很结实决怀不了的」非常に丈夫で決して損じません。（新中国独習 p.152—10）

。結 jié ㄐㄧㄝˊ chieh²

正音。むすぶ、くむ、結合する、凝結する、あむ、しめくくる、むすび目、証書、それまでだ。「結口」口をむすんでいわない。「結

舌」だまりこむ、黙する。「結仇」仇となる。「結怨」同上。「結交」交わりをむすぶ。「結団体」団体をつくる。「結了親了」親戚関係をむすぶ。「結伴」なかまを組む。「結党」なかまをむすぶ。「結婚」結婚する。「結滙」為替を組む。「結納」結託する。「結盟」義兄弟になる。「結義」同上。「結約」やくそくをする。「結誓」ちかいをたてる。「結欠」借金する。「結氷」結氷する。「結肉」こぶ、いぼ。「結毒」毒があつまる。「結習」根強い慣習。「結網」あみをあむ。「結繩」繩をなう。「結撰」文章をつくる。「結愛」いいなずけ。「結子錢」より糸。「蝴蝶結」蝶むすび。「死結」結びきり。「結了一個扣兒」一つの結び目をつけた。「打一個結」結目の一つ作る。「結了賬了」帳簿をしめる、結算する。「結算」決算、計算をおわる。「結住」締切る。「結冊」決算書。「結存」借方残高。「結局」結末をつける。「結缺」貸方残高。「結了」終った、結了した、それまでだ。「這不結了嗎」これでおしまいだ。「了結」かたがつく、始末がつく、完結。「把這一案給我了結得越快越好」この裁判事件を私に出来るだけ早くかたづけてくだされば結構だ。(聊齋・話本)「報結」終る、終結する。「結束」たばねる、締めくくる、取締る。「告一結束」一段落をつける。「結案」事件が終る。「甘結」保証書。「具結」宣誓書を作る。「保結」保証書、身元引受書。「公具保結」公証する。「印結」捺印した保証書。「結壯」強壮な、「結穴」最も緊要な箇処、要点。「結句」詩文の末の句。「結花」花をつける。「張燈結綵」提燈をつるし、紅色の絹をける、祝祭日の門前などの装飾。「結禍」わざわいを引きおこす。「結願」神仏に祈願した日の満つる

こと。「結徹」たがいによろこびあう。「結構」組立、構成。「文章結構」文章構成。「結果」結果、効果、はたす、死ぬこと。「結果他了」彼を殺した。「結了他的性命」同上。

「結愁」心がむすばれうれおる。「結社」同志が組合をつくる、団体を組む。「結軋」繰越す。「軋於下屆」次期に繰越す。「結草虫」みの虫。「那件事已經了結了」(吉野・支那語基礎 p. 66—3)「三国演义這部歷史小説、在我們中国社会裏是極有勢力的、就是沒説過書的婦女小孩子們、都知道桃園結義劉関張的歷史」三国演义というこの歴史小説は、私達中国社会では極めて力を持っていて、本を読んだことのない婦女子でさえもみな桃園で契を結んだ劉・関・張の歴史を知っている。(最新談論篇 p. 80—6)「没想到惟独他一人、与東呉結仇、不顧大局、弄得兵聯禍結一敗塗地不可收拾」思いもよらんことは、ただ彼一人が東呉と仇を構えて、大局を顧り見ず兵禍を永く続け一敗地にまみれ收拾つかなくした。

(最新談論篇 p. 82—3)「這是我的原稟、後面是農商部批、這是另外抄出來的四家舖戶的保結、還有族鄰的甘結、您看衙門裏這不是批准了麼」これは私の最初の出願書で、うらの方が農商部の指令です、これは私が別箇にうつし取った四軒の商家の保証書で、なお一族や隣家の身元引受書があります、ご覧の通り役所ではこの通り許可しておるではありませんか。(談論新篇 p. 45—5)「唉、這叫什麼結果？ 屍首連個腦袋也沒有了」ああ、これは何んという死に方(命がはてる)であらう、死骸に頭もついてないとは。(聊齋・話本・向杲 p. 70)「信写完了、為了表示敬意並作為結束、在末尾可以写此致敬礼或敬祝健康等」手紙を書き終ったら、敬意を表すため、また

締めくくりとして、末尾に此致敬礼あるいは敬祝健康などと書くがよい。(現中・初級読本 p. 20)「我們中国有許多人在青年的時候兒花開得很早，開得也不算不錯，但是一直到現在有結果的却是不很多」私達中国には沢山の人が青年時代に非常に早く花がひらいて、その咲き方も、可成立派である、しかしずっと現在にいたるまで、実を結んだ人は、ぎゃくにあまり多くない。(現中・初級読本 p. 85)「老太太一听了，了不得啦，没有 結局呀」お母さんが聞いて、これはやりきれない、始末がわるい。(聊斎・話本・瑞云 p. 55)

「竟無縁結識，失之交臂的話」ついに交わりを結ぶ縁なく、相会う機会を失うた。(聊斎・話本・瑞云 p. 11)

結^〇 jiě ㄐㄧㄝˇ chieh³

俗に結び目のとき、また「結子」衣服の横開(横わき)などの割れ目を止める結びをするとき。

「打了一個結子」結び目をつつ作る。

結。 jì ㄐㄧˋ chieh⁴

結びつける「繫」に共通する場合はこの音を用いられるが、今ではあまり用いられない。

「結帶子」おびを結ぶ。「結了一個活兒」花結びにむすぶ。

解(俗) jiē ㄐㄧㄝ ㄓㄧㄝˊ chieh¹

俗に下記の場合。

「解手兒」小便をする。便所へ行く。「解大手兒」大便する。「我要下去解手行不行」私は下りて(汽車から)小用をたしに行うと思うが、どうでしょう。(急就篇 p. 63-2)「解三」人の死後第三日目に死者をとむらういろ

いろの行事があるが、死者の靈魂を呼び戻し迎えるという意味で、この場合(接)の字と共用される。「解風」遠来の客を歓迎する、歓迎会。=「接風」。

解^〇 jiě ㄐㄧㄝˇ chieh³

ほどく、とく、はずす、わける、なかなかおりする、解放する、わかる、とかす、まぬがれる、ゆるめる、ときあかす、はらす、きく、そむく、……から。

「解帶子」帯をとく。「解扣兒」結び目をほどく。「解開」とりははずす、とく。「解不開」とかれない。「解鈕子」ぼたんをははずす。「解剖」ときわかつ。「分解」わかちとく、解説する、かみ分ける。「勸解」なかなかおりさす、仲裁して和解させる、励まし慰める。「溶解」溶解する。「講解」のべとく。「和解」和解する。「四解」四方に達する。「解釈」ときあかす。「解衣」ころもをぬぐ、脱衣。「解圍」敵のかこみをとく。「解船」出帆する。「解維」ふなで、維は舟をつなぐつな。「解纜」ふなで、ともずなをとく。「解放」解放する。「解不出来」理解できない。「不可解」了解できない。「解不透」解き方の充分でないこと。「解嘲」人の嘲笑を免れる。「令人不解」人をして理解せしめない。「通俗易解」一般的でわかりやすい。「解勸」ときすすめる。「解法」解釈法、講義。「解乏」疲労を休める。「解和」和解する、仲直りさせる。「解合」同上。「解渴」のどのかわきをなおす。「解顔」よろこび笑う。「解氣」心地がよい。「解義」意義をときあかす。「解巾」仕官する、出仕する。(巾は隠者のかぶるもの、それをとく)「解任」任をとく。「解組」退職、退官(組は印綬で、それをとくは官をやめること)「解禁」いましめをとく、禁止したこと

をとき許す。「解下」とく、はずす。「解析」明かにとき分ける。「解骨」人人離散する。

「解菜」精進おとし。「解装」旅の支度をとく。「解体」人人はなれ叛く。「解煩」気をはらす。「解恨」恨をはらす。「解悶兒」うさはらしする。「解語花」美人にたとえる(言語の通じる花、美人の称)。「解後語」謎に類する言葉。「解道」人のいうことをきく。「解嚴」戒嚴令をとく。「解約」約束にそむく。

「不求甚解」あまり穿さくしない、あまりはじくりさがさない。「殊不可解」いかなる意味か了解にくるしむ。「大解」大便(する)。

「小解」小便(する)。「一解」音楽一曲。「解這裏走」ここから行く。「解家裏来」私の家からきた。「你对這個問題是怎样理解的」君はこの問題をどう解釈するか。「你不会瞧書解悶兒麼」君は本を見て、うさを晴らすことが出来ないのか。(急就篇 p. 73—7)「該吃飯的時候吃飯，該喝水的時候喝水又去勸解了回嫂子，給她寬了寬心」食事するとき、食物をやり、またあによめをはげまし慰めて彼女の心を安めてあげた。(聊齋・話本・向杲 p. 57)「他又非常瞭解莊大小的人性，故此才一推了事」彼はまた非常に莊家親子の性質をよく理解し、そこで譲歩して事件をすませた。(聊齋・話本・向杲 p. 75)「誰也不敢放声哭了，忙忙的過來勸解波斯吧」誰れだって声をあげて泣かずにおれようか、急ぎ来て波斯をなぐさめよう。(聊齋・話本・向杲 p. 40)「有兩個同学弟兄，没事可做，商量怎样消遣解悶兒」二人の同窓の友人が、なす事もなく、どんな娯楽をして気を晴らすかを相談した。(聊齋・話本・阿宝 p. 1)「旁边兒那个老婆子赶紧过来給解困」かたわらにいた老婢が、すぐやってきて、困をといてやった(喧嘩の仲裁

をした)。(聊齋・話本・阿宝 p. 56)

解。jiè ㄐㄧㄝˋ chieh⁴

送る，交付する，護送する，発送する，移す。

「解款」金を送る。「解案」文案を上級官庁に送る。「解餉」税金を護送する。「解糧」同上。「解交」同上。「押解」罪人または大切な物を護送する。「解犯」罪人を護送する。「解配」同上。「起解」同上。「解差」犯人を護送に当る役人。「解子手」同上。「解送」罪人を護送する，(押差)と同義。「解省」省城へ犯人を護送する。「解到北京」北京まで護送する。「解回本地」本籍へ送還する。「解地還家」本籍地へ送還帰宅させる。「解勘」護送して取調べる。「解審」同上。「解繳」引渡す。「我是宣大總督那兒差来的，如今有紹興府沈公子，名字叫沈襄，号叫小霞是欽提人犯，是我把他押解来了」私は宣化・大同の總督のところから差遣わされた役人で、いま紹興府の沈家の子息で名は沈襄、号は小霞というのが、勅令により拘引する罪人であるが、私は、それを護送して来たのである。(官話・今古奇觀 p. 54—2)「在大厅上大声的直嚷，老看門的也攔不住他們，這個時候兒底下人們都來了，和那倆解差乱吵嚷，可就驚動了馮主事了」応接間で大声をあげてしきりにどなったので、老門番も彼達を引止めかねていると、このとき召使どもはみな出て来て、二人の護送の役人と大声で、わめきたてたので、馮主事を驚かした。(官話・今古奇觀 p. 56—6)「四名州佐官，每人一匹馬，完全都準備齊了，就押解餉銀起身，進京交納去了」四人の州の補佐官は、各人一頭の馬に乗り、すっかり準備が整うて、中央へ納める税金を護送して、

都へ旅立った。(聊齋・話本・王者 p. 2)

解。xiè ㄒㄧㄝˋ hsiē⁴

文音。おこたる,「解」の字に共通する,また

ㄒㄧㄝˋ 音と何れも共通するものである。

「解後語」謎に類した言葉,この場合 ㄒㄧㄝˋ 音を用いる。「解不開事」なとくできない事。「這話叫我解不開」この話は私には了解できない。「你的話解了我的底了」君の話は私は全く理解し尽すことが出来た。「解不開扣兒」結び目をとくことが出来ない。

。隔(交) jiē ㄐㄧㄝ ㄗㄥˊ chieh¹

俗音。意義は ㄐㄧㄝ 音と同じ,正音はㄗㄥˊ を用いる,口語のときは主として,ㄐㄧㄝ 音を用いる。下記の語は習慣上(1) 声を用いることが多い。

「隔一天一来」一日おきに一度来る,隔日に来る。「隔壁兒」隣家。この場合北京では俗に隔は(4) 声を用いる。

。隔(俗) jié ㄐㄧㄝˊ ㄗㄥˊ chieh²

俗音で,この音は正音(ㄗㄥˊ)とは文・俗の区別があるだけで,意義は同じであるが,以下の例はこの音を多く用いる。

「隔着河」河をへだてる。「隔着一道海」一つの海をへだてている。「隔一天一来」隔日に来る,習慣上(1) 声を用いることもある。

「隔行不隔理」商売は異っても,商売の道は同じである,事は違っても道理は同じだ。「隔一個門兒」門一つ隔てる。「隔着窓戶」まどをへだてる。「隔山」山をへだてる。「隔手」人の手をへて間接にする。「隔開」隔離する。「隔隣」近所隣り。「隔二騙三」到る処詐偽を働く,中休みしてまた始める。「隔三跳二」間歇的に,とぎれとぎれに。「隔三騙兩」

同上。「隔行如隔山」商売が違えば山を隔てたように勝手に違う。「隔里不同風」郷里が違えば風俗も違う。「把一間房隔斷兩間」一と間を二間にしきる。「日本和中国不過隔一道海」日本と中国は,ただ一つの海をへだてているだけだ。(官話文法 p. 104—2)「自從波斯一走隔了不幾天,她的領家媽媽也走了」波斯が去って(妓楼を)いく日もたたずに,彼女の雇主の婆さんもまたその家から出て行った。(聊齋・話本・向杲 p. 19)「聖人説,三人同行,必有我師,並沒說隔着國的人不足為我師呀」聖人も三人が同じく事を行えば必ずその中には自分の師たる人があるというた,決して他国人は我が師とするに足らぬとはいわなんだ。(談論新篇 p. 68—9)「他的意思打算要倒過來,開照相館帶洋貨局子,他說裏頭院子地方兒大,可以隔斷出兩個院子來,一邊兒照相,一邊兒売洋貨,也都合很局面」彼の考えは,譲受けて写真屋を開業し,かねて洋品店を出す積りである。彼の話では庭の土地が広いから,二つに中庭を仕切って,一方は写真屋,一方は洋品雑貨を売っても非常に恰好だということです。(官話談論新篇 p. 9—4)

。隔(正) gé ㄍㄝˊ kē²

正音。この音は文音であるが,口語であっても文音のまま常に用いるものである。へだたる,へだて,さえぎる,さまたげる,しきり,たえる(たえられぬ)。下記の例語は多くこの音を用いる。

「隔離」へだて離す。「隔開」ひき離す。(口語ではㄐㄧㄝˊ 音)「隔母」異母。「他們哥兒倆是隔母」彼等兄弟は異母兄弟である。「隔斷」仕切る。(口語のㄐㄧㄝˊ 音もまた用いる)。「隔教」宗教が違う。(回回教の人が,

他教の人に言うこと) この場合 ㄌㄣˊ ㄗㄜˊ 音でもよい。「隔行」商売が違う。事柄を異にする。(口語では ㄌㄣˊ ㄗㄜˊ)「隔扇」部屋を仕切る暖簾または衝立の類、門仕切、ふすま。「隔閼」はばみへだてる、阻隔する。「隔閼」へだて、離隔。「隔肢隔肢」くすぐる。「隔鞋搔癢」靴を隔ててかゆいところをかく、思うように手がとどかない。「隔岸觀火」対岸の火災を見物する、高見の見物。「隔牆有耳」壁に耳あり、壁の外に耳あり(秘密のもれやすいことをいう)。「隔房同輩」従兄弟。「隔絶」遠く離れて音信不通。「隔心」心に隔てがある、気が合わない。「隔意」同上。「隔膜」感情の疎隔、意志の疎通をかく。「彼此情意有隔膜」お互の感情が阻隔される。「有点兒隔膜」少し隔りがある。「叫雨隔着」雨にさまたげられる。「隔別」離別する。「隔壁」仕切の壁。「隔壁隣舍」隣家、隣り。「隔子」物のしきり。「書隔子」本棚。「隔背」厚紙、紙または、布地などを厚くはり重ねた小片、この場合隔はㄍㄜˊの(1)声にも発音される。「隔得(不)住」堪えられる(られない)。「隔籐」逆咳(しゃくり)。「隔遠」遠く離れる。「隔越」同上。「隔截」へだててたちきる。「隔塞」へだたりふさがる。「隔火」香炉中の火を蓋う器具。「隔壁雨」陰暦の五月に降る雨。「隔壁戲」一人で数人のコワイロを使うこと、また鳥獸などの叫き声を陰で雑然と同時に出すもの、こわいろ使い。=「説像声兒」「鄙人初來貴國擬設某項商業而一切隔閼勢非得洞達商情者相助辦理莫克有成」私は初めて貴国に参りまして、某種の商業を經營したいと思うのですが、何事も一切不案内でありますので、どうしても商況に熟達した人の力をかりてやるのでなければ、成功は困難で

あります。(中国商業文 p. 42—6)「倒不在他是内行是外行，隔行不隔理不論那行，人情都是一樣」別に彼が玄人であるとか、素人であるとかによらず、商売は異っても道理に違いはない、何商売であっても人情はみな同じである。(談論新篇 p. 12—2)「話說不清楚，当着面還可以問，写信就不同，因為隔得遠，写不清楚就会耽誤事」對話しておって相手の話がはっきりしなければ、面と向って問え返すことも出来るが、手紙ではそうはいかない、遠く離れているから、もし書方がはっきりしなかったら、事を誤ることがある。(現中初級読本 p. 20)「他們親熱地接我，和我緊緊地握手，就像隔了多久的老朋友重見面一樣」彼等は親切に私を迎えて、私とかたい握手を交わし、それは永い間会わなかった旧友の再会と同じようであった。(現中・初級読本 p. 127)「在我想，兩國往來交際，第一是彼此通曉言語，是最要緊的，若是言語不通，不但兩國的政治風俗不能盡知，就連朋友們交接往來，彼此的情意，終不免有些隔膜所謂是差之毫釐謬之千里」私は思うに、二つの国が往來交際する上において、先づ第一に双方互に言葉に通ずるということが、最も肝要なことである、もし言葉が通じなければ、兩國の政治風俗が十分にわからないのみならず、友人間の交際においても相互の感情が、結局多くの疎隔を免れず、所謂一寸した誤りが大きい間違いとなるという訳です(談論新篇 p. 2—7)

隔。gè ㄍㄜˋ keˋ

下記の諸語の場合の「隔」は習慣上特に(4)声に発音される。

「隔扭兒」感情の疎隔。「隔得慌」ものにあって痛くて堪らない。(堅い処に永く接していて痛むとき)「和我的街坊有点兒隔扭兒」私の近所の人と感情の隔りがある。

— 完 —